

申請者	学科名	造形デザイン学科	職名	准教授	氏名	南川 茂樹	印	
調査研究課題	間伐材の有効活用を促すための、針葉樹を用いた新規活用方法の研究（その4）							
交付決定額	300,000円							
調査研究組織	氏名		所属・職		専門分野		役割分担	
	代表	南川茂樹		デザイン学部・准教授		プロダクトデザイン 造形デザイン		素材研究・構造研究・ デザイン全般
	分担者							
調査研究実績の概要	<p>針葉樹を有効に活用することで、森林の回復に貢献できるよう、2007年より針葉樹を用いた家具や空間表現を提案してきた。家具では、針葉樹の強度不足による欠点を構造で補うデザインで克服し、新たなデザイン提案ができた。空間表現では、針葉樹の持つしなやかさを生かし、板を湾曲させてダイナミックな造形表現で効果を得た。また2010年では、針葉樹の通直な木理を活かして、その木目を枝振りで見立てたツリー形のプロダクトを提案し、2011年の提案は、2008年に発表したWAFFLE STOOLの展開であるTriStoolでスツールの完成形を得、2012年度の提案は、カフェ空間をすべてプロデュースするというものだった。</p> <p>そして、今年度の提案は、より有効に針葉樹を活用するために、間伐材の歩留まりが最もよい寸法をもとにしたプロダクトの提案を行った。幅105mm、厚さ12mmをモジュールとし、その寸法の板で構成する現代の室内空間を提案した。</p> <p>西洋化が進む折り、しかし日本人は床座の生活に馴染みがある。テーブル、椅子といった家具ではなく、低座位の座椅子と座卓を提案する。それぞれ間伐材の強度不足を補うため、積層構造を採り、様々な空間に対応する設計となっている。</p> <p>座椅子は、座面と背板の形状を相似形で構成し、加工の手間も省く工夫をした。勿論、座り心地も考え、座面と背板の角度は、実寸モデルの検証を繰り返し、決定に至った。低座位でも、膝下部を少し持ち上げることによって、快適な座り心地を可能にした。構造も積層構造にしているため、体格・空間に併せて対応できるようになっている。とかく座椅子は華奢なイメージがあるが、やや重量があるため、体勢の動きにも耐える安定に繋がっている。</p> <p>また、座卓は、同じように積層構造で構成されていて、空間・人数にも対応して、サイズを自由に可変させることが出来るデザインになっている。</p> <p>今回使用した材は、岡山県西粟倉村の株式会社 西粟倉・森の学校の協力を得て、すべてそこから調達したヒノキの間伐材である。間伐材の欠点である、節があるや、大断面材が取れないといったことを、デザインで克服をし、座椅子・座卓を提案。間伐材でも容易に提供できる幅105mmをモジュールとし、節があっても強度に影響がない積層という構造にし、それぞれの欠点を克服している。使用に影響がない部分に節を配し、アクセントとしても、あるいは間伐材である証拠としての表現も担っている。 <span style="float:right">次頁に続く</span></p> <p>間伐材でつくられていることを強調するのではなく、デザイン面で訴求し、ユーザーがその点を評価し求め、結果として間伐材利用に貢献していることになることが、この提案の狙いである。環境に関心のあるユーザーばかりでなく、一般の人にも広く普及し、間伐材である針葉樹の需要が拡大することが、森林の再生に一助になることを願う。</p> <p>成果発表として、市内のギャラリーで展示をした。より空間をイメージできるよう、座椅子・座卓だけでなく、パーティションや照明も配した。それらも同じ間伐材を使用。</p> <p>出展</p>							

「間（あわい）展」  
会期：2014年3月8日～16日  
会場：ルネスホール金庫棟ルネスギャラリー



